



DIGITALEYES White Paper

## Why Implementation Matters

なぜ、いま「実装」が重要なのか

| 実装とは、判断を人から切り離し、構造として定着させること。

### WITHOUT IMPLEMENTATION

- × 判断が人に依存する
- × 成果が属人化する
- × 施策が点で終わる
- × 担当が変わるとゼロに戻る

「考えているのに、前に進まない。」

### WITH IMPLEMENTATION

- 判断軸が共有されている
- データが次の行動を生む
- 誰が関わっても改善が回る
- 成果が積み上がっていく

「考えなくても、正しい判断が生まれる。」

変化が速く、判断回数が増えた時代において、実装は「選択肢」ではなく「前提条件」

Cookie規制への適応

分断されたデータの統合

圧倒的なスピード要求



## Architecture

実装を構造として完成させる。

### | 施策を積み上げるのではなく、判断が正しく回り続ける仕組みを設計する。

誰が変わっても、同じ制度で意思決定が行われ、改善が回り続ける状態を完成させること。

#### なぜ「分断」が失敗を生むのか。

- ①分析は分析で終わる。  
データの抽出が目的化し、次のアクションに繋がらない。
- ②戦略は資料で止まる。  
理想的な絵は描けても、現場のオペレーションに落ちていかない。
- ③実行は現場任せになる。  
戦略意図が伝わらず、属人的な判断で施策が実行される。

**分断されたままでは、  
優れた戦略も現場で機能しない。**

LAYER 01

#### STRATEGY

#### 勝ち筋を数理化

感や経験ではなく、データから  
「勝ち方」を設計する。

LAYER 02

#### SYSTEM/DATA

#### 判断基盤の構築

判断が仕組みから生まれる  
状態を作る。

判断が  
回る構造

LAYER 03

#### EXECUTE

#### ズレのない実行

データの示唆と、現場の施策を  
一致させる。

LAYER 04

#### ASSET

#### 学習と再現

成果も失敗も、  
次に活きる資産へ。



## Role Split

知能と実装の融合 -Architectureを完成させるための、役割分担。-

| 構造は、ひとつでは完成しない。可視化だけでは、変わらない。実装して、はじめて前に進む。

TOOLS & INTELLIGENCE



デジタライズは、構造を“可視化”する知能。

- データの統合
- 行動・成果の可視化
- 判断指標の定義
- 状況を“見える状態”にする

PARTNER & IMPLEMENTATION



ワンエイティは、それを“現場で機能させる”実装。

- 現場オペレーションへの組み込み
- 判断フロー・PDCAの設計
- 構造が“回り続ける状態”を完成させる
- PDCA構造の自走化支援



## Outcome / Result

### Architectureがもたらす変化

Architectureにおける4つのレイヤー実装で、これまでとは一線を画す、デジタルマーケティング環境が整う。

項目	Before (従来のアプローチ)	After (One Eighty 実装後)
意思決定	担当者の「勘」や「経験」に依存	共通の判断軸による科学的決定
成果の再現性	偶然や外部要因に左右される	改善プロセスが自走し成果が積み上がる
組織資産	担当者の退職と共にノウハウが消失	仕組みと知見が組織の資産として定着
スピード	会議と分析に時間を浪費	判断が仕組み化され、即座に実行が可能

Architectureは、成果のための近道ではありません。  
成果が積み上がるための、前提条件です。



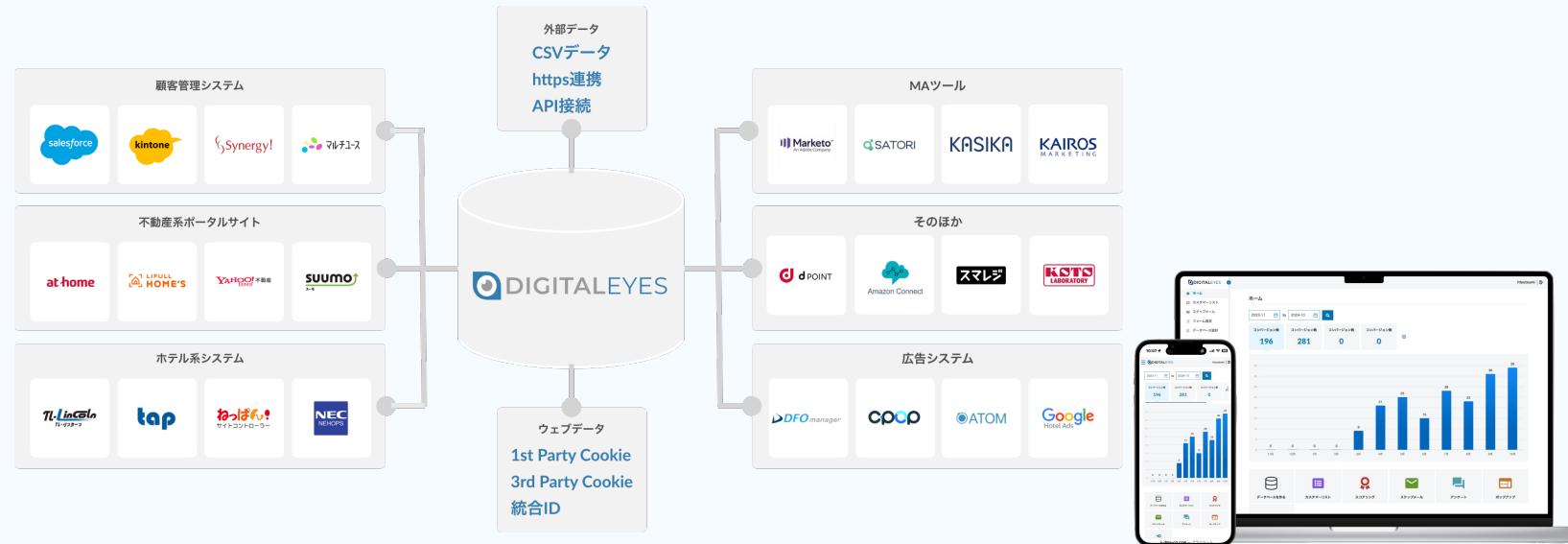
## About DIGITALEYES

DIGITALEYESとは　— 判断を、構造として成立させる知能 —

DIGITALEYESは、マーケティングツールではありません。人に依存していた判断を、構造として成立させるための「知能」です。



分断されたデータを統合し、判断指標を定義し、次の行動に変換できる形で提示する。  
DIGITALEYESは、Architectureを機能させる中枢です。



判断が属人化する原因是、データが分断されていることがある。  
DIGITALEYESは、CRM・広告・MA・Web・外部データを「一つの判断構造」として統合する。

